

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
【部門区分】第6部門第1区分  
【発行日】平成20年5月8日(2008.5.8)

【公表番号】特表2007-532863(P2007-532863A)  
【公表日】平成19年11月15日(2007.11.15)  
【年通号数】公開・登録公報2007-044  
【出願番号】特願2006-532577(P2006-532577)  
【国際特許分類】

G 0 1 R 31/26 (2006.01)

【 F I 】

G 0 1 R 31/26 H

【手続補正書】

【提出日】平成20年3月17日(2008.3.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被試験装置の温度を制御する温度部であって、

・前記被試験装置に対向する側に配置され、前記被試験装置が間隙を介して受け得る熱を生成するヒータブロックと；

・前記ヒータブロックによる前記熱の生成中に前記ヒータブロックを動かすことで前記間隙を調節して、前記被試験装置が受ける熱量を変化させて被試験装置の温度を調節するアクチュエータとを含む、温度部。

【請求項2】

請求項1の温度部であって、

前記アクチュエータは前記間隙を広げて、前記ヒータブロックと前記被試験装置間の熱抵抗を上げ、前記被試験装置が受ける熱量を減らし、

前記アクチュエータは前記間隔を狭めて、前記ヒータブロックと前記被試験装置間の熱抵抗を下げ、前記被試験装置が受ける熱量を増やす。

【請求項3】

請求項2の温度部であって、

さらに、前記間隔内に配置されて前記熱抵抗を有す媒体を含む。

【請求項4】

請求項1の温度部であって、

前記アクチュエータはさらに、前記アクチュエータにより回転可能であり、前記ヒータブロックと前記被試験装置間の前記間隔を調節するネジを含む。

【請求項5】

請求項1の温度部であって、

さらに、前記アクチュエータと前記ヒータブロックとを内包して、かつ前記被試験装置を保持するためのインターフェースを含む筐体を含み、前記筐体は自動試験装置内で使用されるハンドラと接続可能である。

【請求項6】

請求項1の温度部であって、

さらに、前記アクチュエータと前記ヒータブロックとを制御する制御機を含み、

前記制御機は、前記被試験装置の様々な温度を達成するために使用される、ヒータプロ

ックとアクチュエータの設定に関する情報を含む。

【請求項 7】

被試験装置の温度を流体を用いて制御する温度部であって、

- ・前記被試験装置に対向する側に配置されて、前記被試験装置との間隔の決定を行い、前記流体がその脇を流って前記被試験装置上に間隔流速で流れるブロックと；
- ・前記ブロックを移動して、前記間隔の調節、前記被試験装置上を流れる前記流体の前記間隔流速の変更を行い、前記被試験装置の前記温度を調節するアクチュエータとを含む、温度部。

【請求項 8】

請求項 7 の温度部であって、

前記ブロックは、前記被試験装置が前記間隔を介して受け得る熱を生成するヒータブロックを含む。

【請求項 9】

請求項 7 の温度部であって、

- ・流体が前記温度部内を流れる通路と；
  - ・前記通路に導入される前記流体の初期流速を制御するバルブとをさらに含み、
- 前記アクチュエータは、前記間隔を調節して、前記間隔流速を前記初期流速から変える。

【請求項 10】

請求項 7 の温度部であって、

- ・流体が前記温度部内を流れる通路と；
- ・前記通路に導入される前記流体の初期流速を制御するポンプとをさらに含み、

前記アクチュエータは、前記間隔を調節して、前記間隔流速を前記初期流速から変える。

【請求項 11】

請求項 10 の温度部であって、

さらに、前記通路と前記ポンプとの間の前記流体の通り道に在るバルブを含む。

【請求項 12】

請求項 11 の温度部であって、

前記バルブを閉じることで、前記ポンプを用いて前記間隔に前記被試験装置の重量を保持するのに足る吸水力を生成する。

【請求項 13】

請求項 12 の温度部であって、

前記ブロックは、前記被試験装置が前記間隔を介して受け得る熱を生成するヒータブロックを含む。

【請求項 14】

請求項 13 の温度部であって、

前記吸水力が生成されている間、前記ヒータブロックは前記被試験装置の前記温度を調節するために前記熱を生成する。

【請求項 15】

請求項 7 の温度部であって、

さらに、前記アクチュエータを制御する制御機を含み、

前記制御機は、前記間隔流速を調節して前記被試験装置の様々な温度を達成するために使用される、アクチュエータ設定に関する情報を含む。

【請求項 16】

請求項 8 の温度部であって、

さらに、前記アクチュエータと前記ヒータブロックとを制御する制御機を含み、

前記制御機は、前記被試験装置の様々な温度を達成するために使用される、ヒータブロックとアクチュエータの設定に関する情報を含む。

【請求項 17】

請求項 11 の温度部であって、

さらに、前記アクチュエータ、前記ポンプ、前記ヒータブロック、及び前記バルブを制御する制御機を含み、

前記制御機は、前記被試験装置の様々な温度を達成するために使用される、アクチュエータ、ポンプ、ヒータブロック、およびバルブの設定に関する情報を含む。

【請求項 18】

請求項 17 の温度部であって、

前記制御機はさらに、前記被試験装置の重量を保持するのに足る吸水力を前記間隔に生成するために使用される、アクチュエータ、ポンプ、ヒータブロック、およびバルブの設定に関する情報を含む。

【請求項 19】

請求項 7 の温度部であって、

前記ブロックはさらに、前記ブロックからの延長であり、前記被試験装置に対向する側に前記間隔の外形を規定する延長部を含む。

【請求項 20】

請求項 19 の温度部であって、

前記延長部は前記ブロックから分離可能である。

【請求項 21】

被試験装置の温度制御方法をコンピュータが実行するための処理命令が符号化されたコンピュータ読み取り可能な媒体であって、前記方法は、

- ・前記被試験装置に必要な温度を達成するために必要なアクチュエータとヒータブロックの設定を決定する工程と；

- ・前記決定されたヒータブロック設定に応じて、ヒータブロックに熱を生成させるよう調整する工程と；

- ・前記決定されたアクチュエータ設定に応じて、前記ヒータブロックを前記被試験装置の上に距離をもって移動させるよう、前記アクチュエータを調整する工程とを含む、コンピュータ読み取り可能な媒体。

【請求項 22】

請求項 21 のコンピュータ読み取り可能な媒体であって、

前記方法はさらに、前記被試験装置の現在の温度を検知して、前記現在の温度が前記必要な温度でない場合には、前記ヒータブロックと前記アクチュエータの一方を調整する工程を含む。

【請求項 23】

請求項 21 のコンピュータ読み取り可能な媒体であって、

前記アクチュエータとヒータブロックの設定の決定を行う工程は、前記被試験装置の現在の温度を検知して、前記現在の温度が前記必要な温度でない場合には、前記ヒータブロックと前記アクチュエータ設定を決定することを含む。

【請求項 24】

温度部内の被試験装置の温度制御方法をコンピュータが実行するための処理命令が符号化されたコンピュータ読み取り可能な媒体であって、前記方法は、

- ・前記温度部に導入される流体の初期流速に対して、前記被試験装置に必要な温度を達成するために必要なアクチュエータ設定を決定する工程と；

- ・前記決定されたアクチュエータ設定に応じて、ブロックを前記被試験装置の上に間隔をもって移動させ、前記被試験装置の脇を流れる前記流体を、前記初期流速から前記必要な温度を達成する間隙流速に変えるよう、アクチュエータを調整する工程とを含む、コンピュータ読み取り可能な媒体。

【請求項 25】

請求項 24 のコンピュータ読み取り可能な媒体であって、

前記ブロックは、前記被試験装置が前記間隙を介して受け得る熱を生成するヒータブロックを含み、

前記方法はさらに、

・前記決定されたアクチュエータ設定との組み合わせにおいて、前記被試験装置に必要な温度を達成するために必要なヒータブロック設定を決定する工程と；

・前記決定されたヒータブロック設定に応じて、前記ヒータブロックに前記熱を生成させるよう調整する工程とを含む。

【請求項 26】

請求項 25 のコンピュータ読み取り可能な媒体であって、

前記方法はさらに、被試験装置の現在の温度を検知して、前記現在の温度が前記必要な温度でない場合には、前記ヒータブロックと前記アクチュエータの一方を調整する工程を含む。